

歯科形態学実習

Training of Dental Morphology

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 歯科形態学
- ③ 歯周・インプラント周囲組織
- ④ 微小循環
- ⑤ 顕微鏡・電子顕微鏡

授業概要

歯や歯周・インプラント周囲組織の構造を形態学的手法により観察・分析を行える技術を学ぶ。特に、微小循環と骨のリモデリングに関する結果を議論し臨床歯科医療へとフィードバック出来るようにし、顕微鏡、透過型電子顕微鏡試料作製、観察、データ分析に必要な基本操作を習得する。同時にマクロ形態学的手法についても学ぶ。また、口腔領域の硬組織・生体材料を顕微鏡、走査型電子顕微鏡にて試料作製、観察、データ分析が行える技術を修得する。さらに、微小循環研究に関する形態学的技術を身につけることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

歯や歯周・インプラント周囲組織の構造を形態学的手法により観察・分析を行える技術を修得する。実習では顕微鏡・電子顕微鏡など形態学的観察を通じて微小循環と骨形成のメカニズムを身につける。臨床歯科医療へとフィードバック出来る知識・技術を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 歯科形態学研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 歯科形態学的解析基礎実習 24コマ
研究に必要な形態解析手法である顕微鏡・電子顕微鏡試料作製・観察法を教授する。
- ③ 微小循環解析実習 12コマ
微細血管構築と微小血流解析の基本的な手技を教授する。
- ④ 実験動物歯科手術実習 12コマ
研究に必要な再生歯科医療の技術と歯科治療モデル実験動物に応用する手技を教授する。

実習担当教員 松尾雅斗 飯村彰 東雅啓

教科書および参考書

Oral cells and Tissues P.R.Garant, Quintessence.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習開始時には、実験プロトコルを理解し指導教員とともに確認して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し形態学的研究計画の立案ができる。
- ② 顕微鏡・電子顕微鏡の理論を理解し実践することができる。
- ③ 微小循環動態・形態の理論を理解し実践することができる。
- ④ 歯科治療モデル実験動物の理論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
10%	0%	20%	30%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・成果発表は関連学会で発表を行いその理解度を判定する。1回30%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。5%×4回=20%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

歯科形態学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。